



2. 事業報告の概要

学校法人 尚絅学園

(1) 経営力の強化

- ①私立学校法の改正に伴い寄附行為を改定し、理事・監事・評議員の責任と権限を明確化、機能を強化。
- ②自主行動基準である尚絅大学・尚絅大学短期大学部ガバナンス・コードを策定。
- ③自己点検評価、学校評価・外部評価に基づく業務の改善状況について、PDCAサイクルが機能しているか点検を実施。

(2) 強固な財務基盤の構築

- ①H30年度決算や大学7号館建設計画等を踏まえ、中期財務計画を一部変更。
- ②大学・短大・中高において学生生徒等納付金等の値上げを決定し、更に中高については就学支援金制度に対応した内訳の見直しを実施。
- ③尚絅学園創立130周年記念募金第1期(30/4~33/3)募集を継続した他、新たに古木募金を創設。

(3) R1年度予算について、概算要求に対し一律10%の削減を実施した結果、更に9%の経費削減を達成。

(4) 人材育成の強化

- ①働き方改革に対応すべく、契約教職員に関する規程の見直しを実施。

(5) 施設設備及び教育・研究環境の拡充

- ①改正健康増進法への対策として敷地内禁煙とし、特定屋外喫煙場所を設置。
- ②全教職員のパソコンを調査・管理し、ネットワーク不具合やウイルス感染等のインシデントに対応。

(6) 九品寺・武蔵ヶ丘両キャンパスに防犯カメラを設置。

尚絅大学・尚絅大学短期大学部

(1) 教育と学修の充実

- ①自主学習や双方型授業の推進のため、ICT教育に関するFD研修会を実施。

- ②厳格な成績管理のため、大学等の修学支援制度に適応したGPA規程の制定を実施。

(2) 学生の確保

- ①ニーズに対応した体制の整備と多様な学生の確保を実現するため、幼児教育4年制課程(新学部)設置を決定し、具体的な検討・整備を実施。
- ②志願者・入学者増のため、入試区分及び入試科目の見直し、オープンキャンパス実施時期の前倒し、入試広報の強化、現代文化学部キャンパス移転の周知等を実施。

(3) 学修環境の整備

- ①前期終了時に疲労蓄積度調査・学生生活実態調査を実施し、学生に調査結果を公表。

- ②学生の保健室・カウンセラーラームの利用状況を把握し、心身面でのサポートが必要な学生に対しては臨床心理士・養護教諭及び担当教員が連携し対応。

(4) 学生支援の充実

- ①学納金の免除・減額制度導入の検討を行うとともに、修学支援新制度に対応した各規程の改正を実施。
- ②寮(如蘭学寮)の設備を改善した他、寮費・寮費微収方法を改定。

- ③就職支援活動の充実のため夏季キャリアガイダンスを開催し、今年度新たな試みとして「職種理解セミナー」を導入し6職種のブースを設置。

(5) 研究力の強化

- ①外部資金獲得のため科研費に関する説明会等を行った結果、科研費採択件数が大学8件(前期比5件増)、短大9件(前期比3件増)といずれも前期比増加。
- ②「尚絅食育の日」にて熊本の魚のPRや食育研究センターの活動報告等を実施し、学生の食生活状況の改善を検討。

(6) 社会連携の強化

- ①熊本市の食育推進事業に野菜レシピを提供した他、協定締結先の東海大学九州キャンパスと連携し、県内食品会社の協力も得て地元食材を活かした弁当を開発販売。
- ②大学コンソーシアム熊本を活用したプラットフォーム事業に取組み、私立大学等改革総合支援事業に選定。

(7) 国際交流の体制整備と拡充

- ①全学的なグローバル化推進を図るため、グローバル化推進センター及びグローバル化推進センター事務室を設置し、国際交流委員会の代わりにグローバル化推進委員会を設置。
- ②新たな海外の教育機関との連携として、韓国(済州大学)との交流協定に双方合意。

(8) IR機能強化と自己点検・評価への適切な対応

- ①自己点検・評価の結果に関する評価等を受けるため、外部評価委員会を設置し、第1回外部評価委員会を開催。

尚絅中学・高等学校

(1) 特色ある教育の確立

- ①グローバル教育の充実として、フランスからの留学生受け入れ、オーストラリア・フィリピン等への短期留学、海外姉妹校・交流校訪問による交流活動推進を実施。
- ②ICT教育の充実のため、各科目でDVDとプロジェクターを積極的に活用した他、タブレットを使用した授業を導入。
- ③中高大連携の強化として、高大連携授業や大学授業体験等を実施した他、中高大職員の合同研修を実施。

(2) 教育の質向上

- ①礼法教育の推進として、高校2年生全員がマナー検定上級に合格。
- ②特別活動の充実として、熊本城マラソンボランティアに約100名の生徒が参加。

(3) 生徒支援の確立

- ①生徒会執行部を中心とした学校行事を実施した他、生徒会による部活動の昇格決定や校内外のボランティア活動の再検討及び活動範囲拡大を実施。
- ②教育相談充実のため、生徒との個人面談やスクールカウンセラーや開く保護者との座談会を実施。

(4) 地域貢献の充実

- ①部活動等において長期休暇等を利用して合宿・遠征試合、県内外の合同練成会の実施。
- ②ボランティア活動として、全校生徒で「フードバンク熊本」に参加。

(5) 学習意欲あふれる生徒の確保

- ①広報活動の充実を図るために、ホームページの充実、広報部の強化、小学校・中学校・学習塾への個別訪問を強化。
- ②中学校入試において、英語入試を選択制で導入。

(6) 学校評価

- ①生徒・保護者対象の学校評価アンケートを実施。
- ②内部評価委員及び学校評価委員による評価については、令和2年度に実施予定。

尚絅大学短期大学部附属こども園

(1) 教育・保育内容の改革と尚絅らしさの追求

- ①食育活動の一環として、園児が積極的にサツマイモ・トマト等の栽培と収穫活動を実施。

(2) 園児の確保

- ①HP上の「お知らせ」欄を年間約120回更新し、園児の活動の様子を広報。

- ②園児の写真を用いたフォトムービーを作成して保護者説明会で上映。

(3) 子育て支援の充実

- ①地域の療育施設の方を招へいし保護者対象に発達相談会を実施した他、町教委の管理職とも定期的に会合を実施。

- ②子育て支援室「どんぐりルーム」の当日参加も可とすることで利用システムを改善。

(4) 教育・保育の指導力向上

- ①特別支援教育研修として、療育施設や専門家・実践家と連携し療育を学ぶことで、教育・保育に活用。

- ②実習生指導計画案について、実習委員会や子ども園運営委員会において内容を検討。

(5) 地域連携の拡充

- ①地域老人会に美化活動、餅つき、昔遊び等に参加してもらい、地域連携を強化。

- ②武蔵ヶ丘中学校区幼・保・小中連絡協議会を通じての連携事業を継続的に実施。

- ③菊陽町と幼稚園無償化に伴う連絡会を実施。

(6) 学校評価の充実と活用

- ①保護者アンケートを「学校関係者評価」として実施し、結果を保護者に文書で周知。

令和2年度 学校法人尚絅学園事業計画書

I. はじめに

尚絅学園は平成25年度に学園の将来計画である「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」を制定し、その後、平成27年度、平成29年度、令和元年度と計3回の改定を行なっており、学園の将来像実現に向け取り組んでまいりました。

そういう中、昨年度は学校教育法・私立学校法の改正、高等教育無償化、初等、中等教育における新学習指導要領や2040年に向けた高等教育のグランドデザイン等が示され、学園を取り巻く環境が大きく変化するとともに、その対応に追われる年になりました。

今年度は「建学の精神」「教育理念」を遵守しつつ、「長期ビジョンと中長期行動計画」のもと事業計画の着実な取り組みに努め、学園の持続的な発展に向けて、教学と管理・運営全般に亘る改革を一つひとつ実現させてまいります。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

本学園が教育研究機関として社会の要請に応え、学生生徒等が充実した快適な学校生活を送るために、経営力の強化、強固な財務基盤の構築、人材育成の強化、施設設備及び教育・研究環境の拡充が必要不可欠です。

○経営力の強化

規律と誠実性を維持しつつ、学園を取り巻く環境変化に迅速に対応すべく、ガバナンス機能・組織マネジメントを強化し、更なる組織力の結集に努めます。

○強固な財務基盤の構築

収支バランスの不均衡解消に向け、強固な財務基盤の確立が喫緊の課題となっています。

学生生徒等の定員未充足の解消や学生生徒等納付金見直し後の課題抽出、補助金等の確実な獲得や部門別収支状況に基づく収支改善及び経費支出の厳正な管理により、適正な収支バランス確保に注力してまいります。

○人材育成の強化

学園・設置校に有為かつ適正な人員を確保しつつ、多様化する学生・生徒等へ適切かつ的確な対応ができる人材育成を強化してまいります。

特に、人材成育計画の構築と有効性のある研修体制の確立に取組むことで、教職員一人ひとりの資質・能力向上と職能開発の促進に努めます。

○施設設備及び教育・研究環境の拡充

施設設備計画に則り、教育・研究のための施設・設備の拡充に努めるとともに、危機事象に対する機動的・有効的な危機管理体制の強化とインフラ整備に努めます。

2. 尚絅大学・尚絅大学短期大学部

2020年度は、「長期ビジョンと中長期行動計画」に則り、学園の持続的な発展に向けての具体的な施策を立案し、着実に実施して参ります。

○本学の課題である入学定員の確保

若干改善されつつありますが、継続できるように努めなければなりません。そのために、学生や高校生、社会のニーズを汲み上げながら、ニーズに応じた体制の整備と多様な学生の確保に努めるとともに、各学部・学科の独自性を生かした魅力度アップに取り組み、コロナウイルス感染防止対策も考慮した戦略的な広報活動を迅速に展開し、高大連携については協力体制を強化しながら、学生確保に尽力します。教育と学修においては、教育の質の転換による教育改革の推進とともに、コロナウイルス感染防止に対応した遠隔授業を含めた学修環境の整備に取り組み、新たに設置されたグローバル化推進センターの活動を展開します。また、現代文化学部の九品寺キャンパスへの移転については予定どおり年度内に実施し、こども教育学部(仮称)の設置については、設置準備委員会を中心に作業を進め、年度内に設置認可申請書を提出する計画です。

○学生支援

学修支援センター、就職・進路支援センターや学生支援委員会等の活動を一層充実させ、特にコロナウイルスの影響を考慮した就職指導を強化し、学生の満足度向上に努めます。研究については、研究環境の整備と産学官の連携に基づく共同研究の推進、外部資金の獲得及び研究倫理の遵守に取り組みます。社会連携に関しては、尚絅食育研究センター、尚絅子育て研究センター、尚絅ボランティア支援センターの活動を活性化するとともに、尚絅地域連携推進センターの機能強化を図り、社会的貢献の諸活動を推進し、本学の地域社会での存在感を高めます。また、生活科学部・食物栄養学科・幼児教育学科と附属こども園の教職員を中心に担われている尚絅食育推進プロジェクトにおいては、組織の充実を図りながらさらに研究活動を推進し、研究成果を発信します。

○IR及び自己点検

大学内外のデータの収集分析に努めて大学の適切な運営を支え、第3期に入った認証評価における内部質保証の課題に適切に対応できるよう、外部評価を含めた点検評価を実施します。

3. 尚絅中学・高等学校

令和2年度は令和4年度(2022年度)から年次進行で実施される新学習指導要領を視野に入れて検討した平成31年度(2019年度)の計画を再検討し、さらなる事業内容の充実と新しい事業の取り組みを以下のように策定しました。

○特色ある教育の確立

「建学の精神」「教育理念」を基に、魅力ある授業や学校行事等を通して知識・技能・思考力等のバランスの取れた生徒の育成に努めると共に、新学習指導要領の内容を踏まえ、学力向上及び授業改革に取り組みます。また、德育・情操教育・女子教育の充実を図り、社会的・職業的自立に向けて必要な能力が身につく取り組みを行い、グローバルな社会で活躍できる人材を育成するために生徒の国際交流の活性化を推進します。

○教育の質向上

生徒に「何ができるようになるか」という具体的な目的を明確に示すことにより「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒が自ら考えるような授業展開を行います。その為に新学習指導要領に対応したカリキュラムを確立するとともに、タブレットを用いた授業内容や教育活動の質の向上のためのプログラム作成、また、今後、コロナウイルス感染症の更なる流行なども考慮に入れ、オンライン学習の研究を深め、新しい生活様式を取り入れながら学校行事や課外活動、広報活動に取り組みます。また、キャリア教育の充実に努め、職業観の育成や職業人に求められる倫理観の育成を行います。

○生徒支援の確立

令和2年度から改正される就学支援金制度の内容を視野に入れて、生徒が安心して学べるように経済的に就学困難な生徒への各種制度を充実させると共に、育友会・同窓会・後援会との連携を一層深めて生徒の日常の学業・課外活動等の支援体制を整えます。